

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	練馬区立こども発達支援センター 放課後等デイサービス キッズ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月6日		～ 令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和8年2月6日		～ 令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医師、理学療法士、作業療法士、公認心理師、保育士等の多職種が在籍しており、それぞれの専門性を生かした多角的な支援を提供できる体制となっている。	必要に応じて個別に相談しながら支援方針を検討している。	今後は専門職間の連携をより強化するため、カンファレンスの機会を増やし、支援の質の向上を図っていく。
2	コミュニケーション支援に特化した独自のプログラムを実施しており、発達段階や障害特性に応じた専門的な支援を行っている。	発達段階や特性に応じてプログラム内容を調整し、個々のこどもに合わせた支援を行っている。	今後もプログラムの見直しを行い、より効果的なコミュニケーション支援の充実を図る。
3	学校訪問を実施し、対象児の様子を観察するとともに担任との情報共有を行うなど、関係機関との連携を積極的に行っている。	学校や関係機関と連絡を取り合い、必要に応じて学校訪問を実施するなど、支援の継続性を意識した連携を行っている。	今後も学校や関係機関との連携を強化し、切れ目のない支援体制づくりを進めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援センターとして他の業務と兼務しているため、クラス数が十分とは言えず、希望があっても受け入れが難しいケースがある。	利用希望者が多い一方で、職員配置や時間的制約によりクラスの増設が難しい状況がある。	体制を見直し、可能な範囲で受け入れ枠の拡大を検討していく。
2	保護者への情報提供が十分とは言えない面がある。アンケートでも比較的评价が低い項目であった。安全計画や苦情対応体制は整備しているが、保護者への周知が十分ではなかった可能性がある。	情報提供の方法が限られており、保護者に十分に周知できていない可能性がある。	保護者向け資料の配布や説明の機会を増やすとともに、その他の情報発信の方法についても検討していく。
3			